

授業科目 疫学

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2	対象学科	健康
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○		○
【概要・一般目標：G10】				
<概要> 公衆栄養学及びその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。 1年で学んだ公衆衛生学及び3年で学ぶ統計情報処理も、本来その応用である。共通するEBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得する。 <一般目標：G10> 証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方をを用いて、各種疾病の特徴を理解する。				
【行動目標：SBO】				
1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. 各種疾病の原因を説明できる。 4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。 5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。				
回数	授業計画・学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	疫学とは、疫学の歴史		1	講義＋小テスト、担当：遠藤 和男
2	疾患の自然史		1,2	講義＋小テスト
3	環境と疫学1		1,2	講義＋グループワーク
4	環境と疫学2		3-5	グループワーク
5	環境と疫学3		3-5	成果発表
6	職業病と疫学1		1,2	講義＋グループワーク
7	職業病と疫学2		3-5	グループワーク
8	職業病と疫学3		3-5	成果発表
9	循環器病の疫学1		1,2	講義＋グループワーク
10	循環器病の疫学2		3-5	グループワーク
11	循環器病の疫学3		3-5	成果発表
12	がんの疫学1		1,2	講義＋グループワーク
13	がんの疫学2		3-5	グループワーク
14	がんの疫学3		3-5	成果発表
15	まとめ（国家試験問題の検討）		1-5	講義
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮、久道茂、編	南江堂	2013・2,400円＋税・1年生の公衆衛生学で使用した。
	保健統計テキスト	遠藤和男	考古堂	2008・2,800円＋税・3年次の「統計情報処理」でも使用を予定。
参考書				
その他の資料				
【評価方法】		【履修上の留意点】		
1) グループ発表の出来栄は、学生間でも相互評価する。 2) 出席点も考慮して、レポートで評価する。		・3回目以降のグループワークは6人×7グループを基本とする。		